

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 嶽陽会	代表者	三浦 隆	法人・ 事業所 の特徴	事業所の特色として、法人で行っている①「通院等移送サービス」、②「配食サービス」、③「在宅介護者教育」、④「災害時避難所」、⑤「トータルケアサービス」、⑥「嘱託医や協力医療機関との連携」の6つの機能を小規模多機能のサービスと組み合わせ、利用者やその介護者に対してより重層的なサービスを提供できる体制を確保している。
事業所名	生活多機能支援ホーム パインの雫	管理者	高杉 勇希		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	2人	人	2人	1人	人	2人	人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>①事業所で行う自己評価について、次年度はさらにもう少し早めに取り掛かる。</p> <p>②事業所評価の内容を推進委員へ説明する際、あまり専門用語を使用しないようにする。</p> <p>③普段からの記録や文章、家族と話をする時にも専門用語はあまり使用しない。</p>	<p>①事業所内で行う自己評価については10月末までには意見を取りまとめることが出来た。</p> <p>②新型コロナ拡大防止対策のため、推進委員の皆さまへ集まってもらうことが出来ず、達成することが出来なかった。</p> <p>③普段から家族と話をする際の言葉遣いには気を付けており、「分からない」というご意見は無かった。ただ、ご家族との意思疎通では上手く行かなかったケースもあった。</p>	<p>・省察し、改善点への気付きが伺える。また試行する方法、フォーマット作成などを予定しており、今後は具体的な案のアイディア出しは必要。</p> <p>・テーマによっては職員の経験や職種などで取り組み方に差異が表れやすいので、互いの役割をしっかりと理解し合う必要性が重要だと感じた。</p> <p>・「～してはどうか？」という検討中の文言が数ヶ所に記載されていたので、その結果どうするか気になった。</p> <p>・利用者については共通すると思われる課題もあるため、共通性を踏まえて、課題・過程・結果を整理してみるのも可能と思われる。</p>	<p>・事業所内で改善に取り組んだ結果を自己評価でだけではなく、運営推進会議の際にも報告することで、取り組みに対する進捗具合も知ってもらおう。</p> <p>・対応が難しかったケースについては、包括で行っている地域ケア会議で取り上げてもらうようお願いする。（事業所としての対応の再検討や地域課題へとつながるかも知れない）</p> <p>・職員それぞれの得意な部分や経験のある部分があるので、これまで以上に力を合わせて改善計画に取り組んでいく。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>利用者の座る位置について、固定することで他利用者間でのトラブルの原因となる事もあるため、テーブルやテレビなどの配置も含めて、臨機応変に対応していく。</p>	<p>その時の通いの人数や泊まりの人数に応じてテーブルの配置を工夫し、食事の際も可能な限り利用者同士の間隔をあけ、感染予防にも取り組んだ。</p>	<p>・防犯の観点から玄関に鍵を掛ける必要もあるのではないかと？</p> <p>・玄関には鍵がかかってなく、スタッフが笑顔で接してくれ、入りやすい。</p> <p>・利用料の支払いにいつも声をかけて入っていますが、玄関に呼鈴（チャイム）があってもいいと思います。</p>	<p>・来所者が呼び鈴の場所が分からなかったということが多々あるので、その活用方法を検討し、対応する。</p>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>①東目屋で行われている夏祭りが昼から開催されているので参加してみる。 ②特養へ来ている高校生のボランティアに、零へも来てもらって交流を図る。 ③他法人の夏祭りへ参加してみてもどうか？ ④「キッズハローワーク」について調べ、参加できるようであれば参加してみる。</p>	<p>①新型コロナため開催されず、参加することが出来なかった。 ②新型コロナ感染拡大防止対策の一環として、ボランティアの受け入れを中止したため交流を図ることが出来なかった。 ③新型コロナのため開催されず、参加することが出来なかった。 ④「キッズハローワーク」に関して調べたものの、開催されなかったため参加することが出来なかった。</p>	<p>・地域性をより深めるため、町会や民生委員の活動やその他の地域資源を知るための取組み方法が計画に落とし込まれ、一部実行不可能な取組みもあったようですが、具体性があり良いと思う。 ・職員の置かれている立場上、地域の方と直接的なやり取りが難しい職員もいますが、自らが所属している事業所がどのように地域との関わりが持っているのか、その現状や課題を常に把握することが大切かと思います。 ・地域の学生団体による合唱や楽器の演奏などを計画してみてもどうか？短期間であればボランティアで来てくれると思う。 ・中学生とも交流を図れたらいいと思う。 ・直接交流することが難しい状況があるため、オンライン、ビデオ、動画など IT 活用でリアルに代わる交流が図れないだろうか？</p>	<p>・「事業所と地域のかかわり」という項目に関して、新型コロナ感染拡大防止の観点から積極的に行うことが出来なかったが、状況を見ながら昨年度実施することが出来なかった点を実施してみる。 ・児童センターへ行きながら小学生もいるとのことで、そういった子供でも気軽に来ることが出来るような取り組みを行う。例えば、職員の子供から声がけを試してみる。 ・直接の交流が難しいと考えられるので、それに代わる活動（動画やインターネットなど）を検討し、可能であれば実行して試してみる。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>①地域の行事は午前中に開催されており、入浴の関係で参加が難しい…→事前に参加するのが分かっていたら、入浴は調整できるので、担当以外でも情報を仕入れて参加できるようにする。 ②地区の敬老会へ参加するための手段（主に交通手段）が無い利用者へ声がけし、希望があれば対応していく。 ③昼食外出の時、訪問のみの利用者へも声がけし、交流のきっかけを提供していく。</p>	<p>①新型コロナのために地域での行事が開催されなかった。（開催されても事業所としての参加は出来なかった） ②新型コロナのため敬老会が開催されなかった。 ③新型コロナ感染拡大防止対策の一環として、極力人混みのある所への外出を控えたため、昼食外出の行事自体を開催することが出来なかった。</p>	<p>・今年はコロナでどこにも行けず、仕方ないかと思えます。 ・新型コロナの影響で、当初計画を遂行するのは困難だと思われれます。但し、「出来ない」で全て終始するのではなく、他の代替方法を次回計画に反映させることが出来るよう期待しています。 ・地域の行事やイベントはこれから参加して欲しいです。</p>	<p>・利用者の中で、訪問のみの利用者の方がいるので、その利用者の誕生日を零で行い、事業所へ来るきっかけ作りを行う。同様に、零で行う行事（外での昼食会やクリスマス会など）への参加の声をかける。 ・以前のように利用者全員で食事に出かけることがとても難しい状況なので、本人が希望するのであれば職員と共に昼食へ出掛ける機会を設ける。 ・新型コロナ感染拡大の観点から、地域の人や近所の人へ呼びかけて何かを行うのは難しい状況のため、零登録者への働き掛けを中心に活動していく。</p>

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>会議の様子（森・零会議や零会議、運営推進会議）の様子を写真で残し、その様子を客観的に見ることが出来るようにする。</p>	<p>会議の様子を写真で撮ることを管理者が忘れており、達成することが出来ていなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの感染拡大防止のため、施設関係者以外の地域の方が集う会議の開催について、困難な状況にあると理解できます。 ・町内会の回覧については、感染症対策の中であっても出来ることであり、掲載内容を検討して、是非地域住民と関わる機会を運営に活かして欲しいと思います。 ・当面の間、会議の開催は難しいことから、配布資料の記載に説明を加え、より理解・把握しやすい様式が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の様子を写真で残し、その様子も記録として残すようにする。 ・運営推進会議は今後も開催が難しいと考えられるため、配布資料へ説明などを加え、見た目での分かりやすさの向上を図る。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①初動訓練を日中想定で行う。 ②初動訓練の際、口頭だけではなく、実際に動いて行う。 ③防災訓練時に家族や運営推進委員に見学してもらうための案内を出す。 	<ol style="list-style-type: none"> ①初動訓練を日程想定で行っていた。 ②初動訓練の際に消火器の場所の確認や排煙窓の操作の仕方などを確認した。 ③上期・下期それぞれで避難訓練を行ったが、新型コロナ感染拡大防止対策の観点から職員と利用者のみで行うこととなったため、案内を出すことは無かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町会消防団にも声をかけて欲しい。 ・今はコロナ禍で無理ですが、一度防災訓練へ参加してみたい。 ・火災以外に想定される風水害についての対応策も必要かと思われる。 ・自然災害や火災などあらゆる緊急事態に遭遇した際に、損害を最小限にとどめ、事業継続のための方法、手段など予め取り決めを検討することが大切かと思う。 ・入居する家族にとって災害時の対応がキチンとしていると安心です。なおかつ施設への信頼が高まります。そのために定期的な防災訓練は必要です。年に何回行われているか、大事なチェックポイントになると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想定される風水害が発生した時の対応について、勉強会または口頭などで職員へ周知する機会を設ける。 ・可能であれば、避難訓練の際に運営推進委員や消防団、地域住民に参加してもらう。そのための声かけを行っていく。